

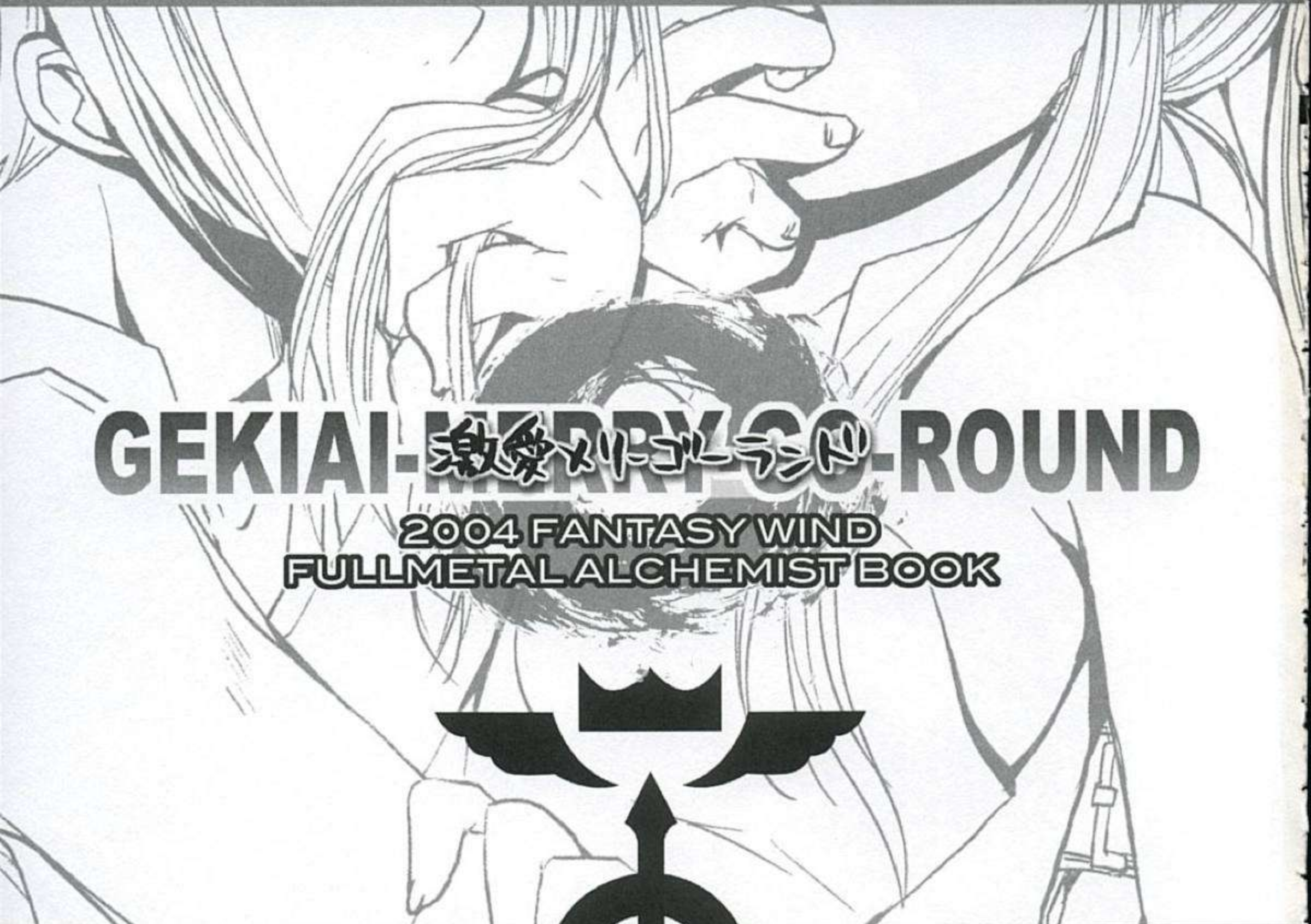
ADULT ONLY



# GEKIAI-MERRY-GO-ROUND

2004 FANTASY WIND  
FULLMETAL ALCHEMIST BOOK

EDWARD×WINRY ROY×RIZA MAIN NORMAL COUPLING BOOK



**GEKIAI-*激愛*×*キリコ*-ROUND**

**2004 FANTASY WIND  
FULLMETAL ALCHEMIST BOOK**





愛しても愛し足りない

君はたった一人のMaria

# MAEGAKI

こんにちは。しなのゆらです。  
鋼本第2弾です。  
今回はゲスト様もいっぱい  
いちゃいちゃもいっぱい  
もはや自分が読みただけの  
本になってます。わー

自分漫画は  
前回エドウィン多めでしたが  
今回はロイアイ多めです。  
でもページのなものなので  
愛はどっちももっさりですよー

もっさり大暴走しすぎて  
ちょっとウツってしそうですが  
欲望には正直に…正直に…。  
夢見すぎててすんません。  
男性も女性も読めるもの  
になってたらいいなーなんて。  
いいなーなんて…。

少しでも楽しんで頂けたら  
幸いです。

ではでは。

2004 / 8 / しなのゆら



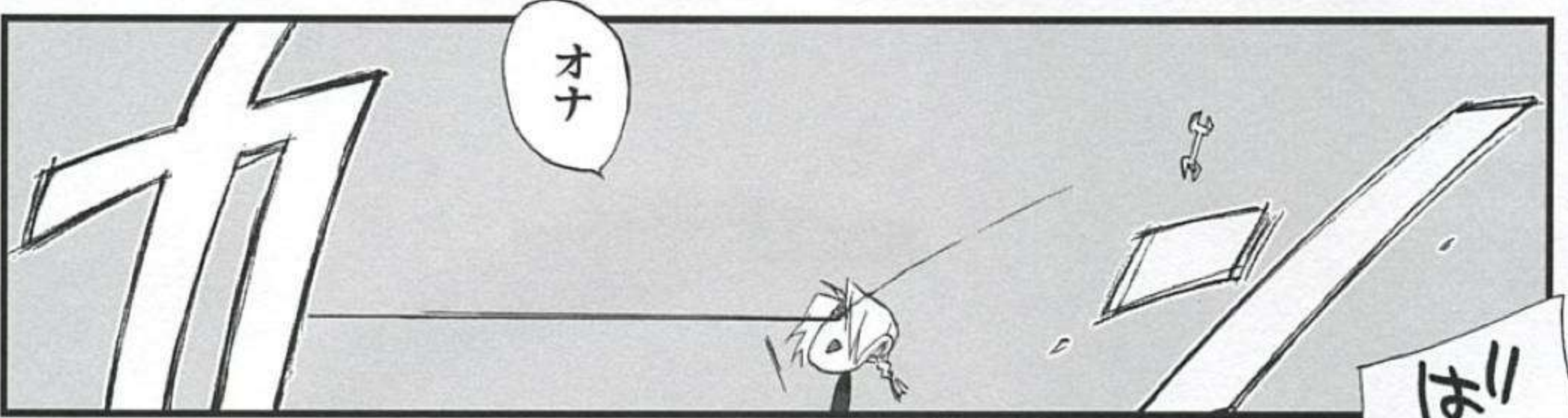
# contents

- |   |                        |
|---|------------------------|
| 07 「PLAYMATE OF THE YEAR」 しなのゆら         | 34 イラスト しなのゆら          |
| 16 「弱点」 高苗京鈴                            | 35 「軍服でいちゃこいてみよう!」 東美輝 |
| 18 「アルっこのイチャパラ(仮)」 ゆーやん                 | 40 「君が足りない」 桐谷忍        |
| 19 「WATER PANIC」 浙佐拓馬                   | 48 「SHE☆BANGS」 しなのゆら   |
| 24 イラスト けこちゃ                            | 66 イラスト しなのゆら          |
| 25 エドウィン漫画 うげっば                         | 68 インフォメーション           |
| 30 「恋の呪文はアームストロング家に<br>代々伝わりし以下略」 服部ミツカ | 69 ゲスト様 コメント           |
| 32 4コマ 目黒                               | 72 後がき                 |
|   | 74 奥付                  |



ハボさんは見た！！







えっ  
なっ…何!?



想像したろ  
やーんー

夫、  
甲斐なしな

もんもんもん



んっ!?

ん——っ!!!

はっ…

んっ…んん



お前…  
さっき  
イってなかったろ?

なっ…?

は…あ

手伝ってやるよ

やっ

は…



んっ!!!

あゆア





ちよっ…  
エド…っ!!  
オートメっ…

っっ…!!!



やっ  
いっ…  
いいわよ  
そんなのっ

痛かったら  
言えよ

くちゅ



ひあ!?

ここ  
イイだろ

あっ



すげえな…  
こんなになるまで  
一人でいじってたの  
かよ…

んっ  
んんっ

くちゅ

くちゅ

くちゅ  
くちゅ



お前の  
感じるっは

前  
覚えたしな

んっ…は♡

だめっ…

きちゅっ

くちゅ  
くちゅ

くちゅ  
くちゅ









バカみたい…

あの夢が  
現実に  
なったことが

こんなにも  
うれしい  
なんて…

キヤッ

いや…  
あの…  
それ夢じゃ  
ねえ…よ?

右キムラムラニ  
なつた時ちまつ

つかえつ。

キヤッ

え?

え!?

~ FLAME OF ALCHEMY

オレ…

てっきり  
覚えてると  
思ってたから…

オレが  
覚えてた  
のよ…

悪ノリ…

しちまった

ごめん…

うそ…

夢じゃ  
ないって  
ことは…

あまあま  
や…だっ…

てことは  
アンタまさか  
寝込み襲ったの?

まさか  
寝込み襲ったの?

ちよっ  
何考えてんのよ!!

end.

いや、その  
これには深いような  
そうでもない意味が…

バカ豆!!!



毎度の事なんだから  
もう少し  
我慢しなさいよ

何よ  
情けないわね



痛て痛て痛ッ！  
おいコラ  
ウインリイっ！

もう少し  
優しくしろっ！



ほほほ

ウインリイ  
!!!

伊達に4年も  
アンタの体  
弄ってないわよ



いつ  
!?

優しくって  
こらう？

えいつ

びくっ

たぐマッ



うりや

キヤー!!

何  
すんのよっ!

弱点を  
知ってるのは  
自分だけだと  
思っなよ?

ちっさいくせに  
ナマイキっ!

ちっさい  
言うなー!!!

メカオタ  
メカオタ  
キモっ!

なあんで  
すってえー!!!

…で

どうして  
こうなってるの  
…?

あー  
何で  
だろうなあ…?

青春  
だねえー

違うと  
思っぞし







ダメ…アル  
大きすぎて  
入らないよ

ねえウィンリイ  
…いいでしょ?

リハビリちゅう  
とか



おおおおまえら  
なにやっつてられ  
兄はゆるしませんよ

あ  
兄さん  
エド



な…何の話  
してるんだ  
アイツら  
?

…だったら  
兄さんだったら  
良いの?

エド…なら…



こ…これは  
もしかして…  
かああ

…ボクじゃダメ  
なの?  
…  
何でだよ!!



あぁあーっ  
アルやめてお願い  
うううう  
裂けちや

あぁあーっ  
アルやめてお願い



お前  
絶対  
わさとだろ…

何だと  
思ったの?  
兄さん



ウィンリイの  
スカート

つたく  
遅えなあ  
大佐!!

# WATER PANIC

馬 拓 佐 浙

人のこと呼び出し  
といて自分が遅れて  
来るんだもんなあ



すまん鋼の  
ちよつと  
所用だ  
少々遅れるが  
待っていてくれ  
たまえ!  
あつちなみに  
机の上の液体は  
絶対に飲まない  
ようにな!



だいたい飲んじやいけない  
物なんか無造作に置いて  
いくなんての!



エドおお



ウッ  
ウインリイ?

ねえエドお  
なんか体が熱いのお

もぞもぞ

なっかなな  
何してんの  
お前!



あの水飲んだら  
変なの



口移しで  
あげる〜

だき

やっやめろって  
おっおい!!



水??

うわっお前  
アレを  
飲んだのか?

エドモ  
飲む〜?

からっぽ



やっやばい  
なんか本当に  
くらくらしてきた...

ウっ  
ウィンリイ

ほらあなんか  
気持ち良くなつて  
きた〜



んむっ  
ちゅ♡



もう...  
どうなっても  
知らねえからな

んっ  
ちゅ



ちゅーしよ  
ねっ??



お前のココ  
びちやびちやだぜ

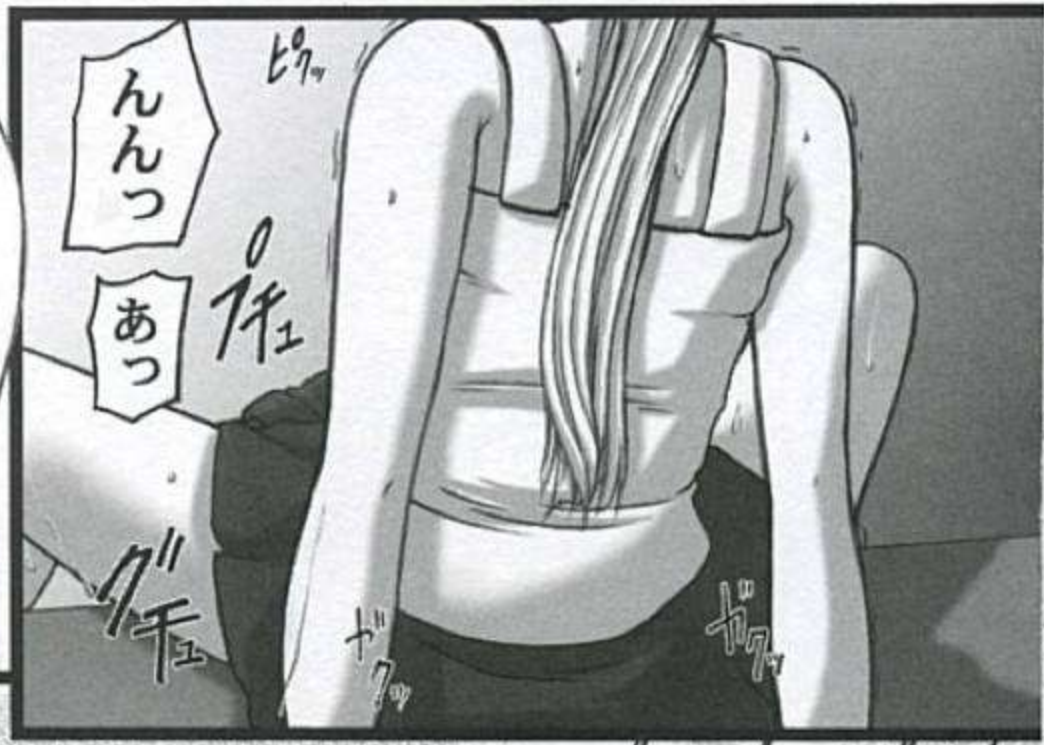
ああっびちやびちや?  
あんっあああ



んっ  
ああっ

エドお  
あっんんっ

あっ  
あはっっっ♡



んんっ

あっ



ああっ  
でちやうっ

上着敷いたから  
ここに乘れよ  
うっうん

でちやあっ  
あああ

びびび

スッ



んむっ

ふあっ  
んんっ

びんっ

あっ

びんっ



んっ...  
いいよ

はあ

はあ

はあはあ  
いったいれるぞ



すんっ

ふあっ

エドお  
エドお

あんっ

エドおいしいよお  
ああっあんっ  
エドお！

んあっ

ひあっ

すんっ

びんっ

びんっ

パンク  
ズチュ  
パニ





**FULLMETAL ALCHEMIST**



ちよ…

エド

せつがち  
なんだから！

もう  
やだっごばー！

私汗くさいし  
オイルくさいし  
お風呂  
入ってくる  
まで待ってよ！

ちよっ…



それにエド  
長旅で  
疲れたって  
夕食の時  
言っただ  
じゃない

べつに  
アームストロングが  
横でゴチャゴチャ  
うるさくして  
疲れたくらいだよ

ちよっ…

あんっ！

こんなに  
濡れてきてるん  
だからいいだろ  
別に…

大坂魂 / ラギッぱ



だから！全然  
良くない！

ムカッ

お風呂に  
入らないと  
いけない状況が  
女の子には  
色々あるのよ！



もうー！  
もう少し女心って  
いうものがわからないと  
男心こそ最低だぞー！



ケツ  
なあ〜にが  
女心だよ



うるさいわね  
ガキー！



もう  
あのHONJー

仕事で疲れていても  
こつこつ時だけは  
元気が良いんだから

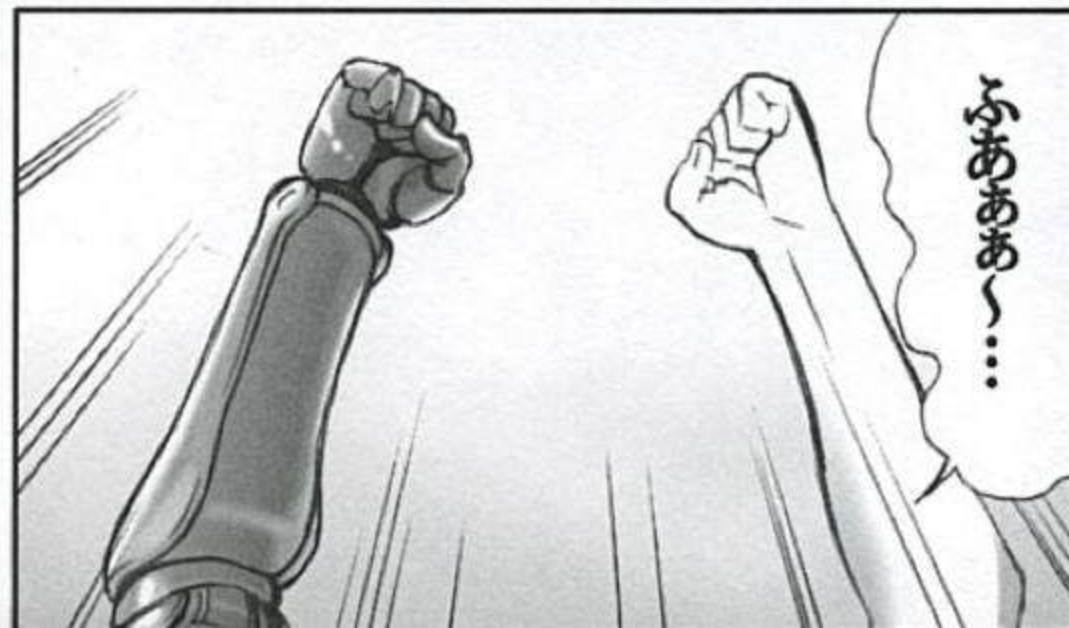


…うたく  
これから汗  
かくんだから

別に風呂なんて  
どうだって  
良いじゃないかー



ふふふふ…



あ…



カポーン

もう…ちよっと  
触られただけで…  
感じちゃった  
じゃない！

30  
ハ  
るん

あー！



H下のバカ…  
やだ…ぶっしゅめ…



やだ…  
私！

んっ  
ふっ  
んっ…

ふあ〜

あっ

ちゅ…  
ふちゅ…  
んちゅ…



んっ

くちゅ…

H下のバカ…



止まらない！

あー！  
イミちゅなリカ…

んっ  
ちゅ



ふわあ…

指が…

指が…

ひちゅ…

あーっ！



あーっ！

うっ

...うっ

はあ

はあ

私の方が...  
欲求不満  
...なのかな

はあ

はあ





あっー  
さっぱりした！

エド  
おまたせー

ハッハ



何よ  
やつぱり  
疲れてたん  
じゃない！

ハッハ  
ハッハ



おやすみ



ツイッめー

つん！

さっき  
させてあげた方が  
よかたかな...

期待させるだけ  
させといてー  
ちよー  
ムカツクやつ...

完。

円らかな瞳  
愛らしい額の巻き毛  
逞しい髭に  
隆々とした筋肉の  
全てが美しい  
私の兄様……

キヤスリンはそんな兄様を  
心からお慕いしております  
……



に……  
兄様……あ♡

あ  
あ……ん



はっ  
はっ  
あは……あ

恋の呪文はアームストロング家に代々伝わりし以下略

けれど私達は  
血を分けた兄弟、  
どんなにも愛しくとも  
結ばれる事は決して  
許されないのなら



どうか兄様  
この時だけは  
こんなふしだらな  
私をお許しください  
.....!



# To be 戦う少尉さん (嘘)

描いた人：服部ミツカ (御免なさい)



目黒

死体使うとかね。



魂の再定着なら  
この俺にアイデアが！

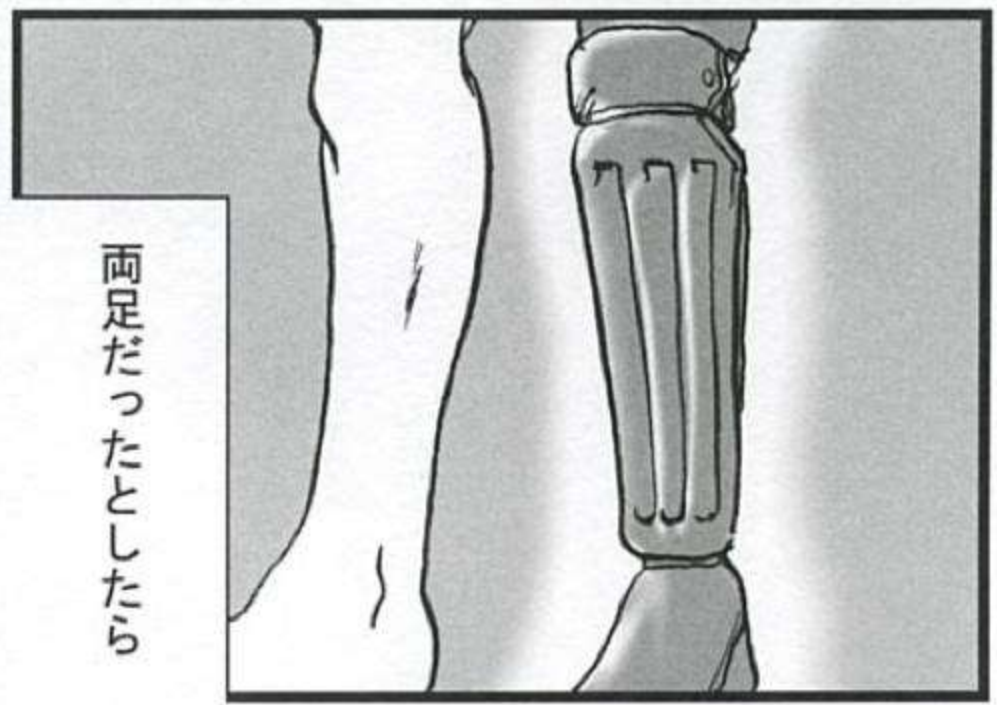
もしも〇〇が××だったら



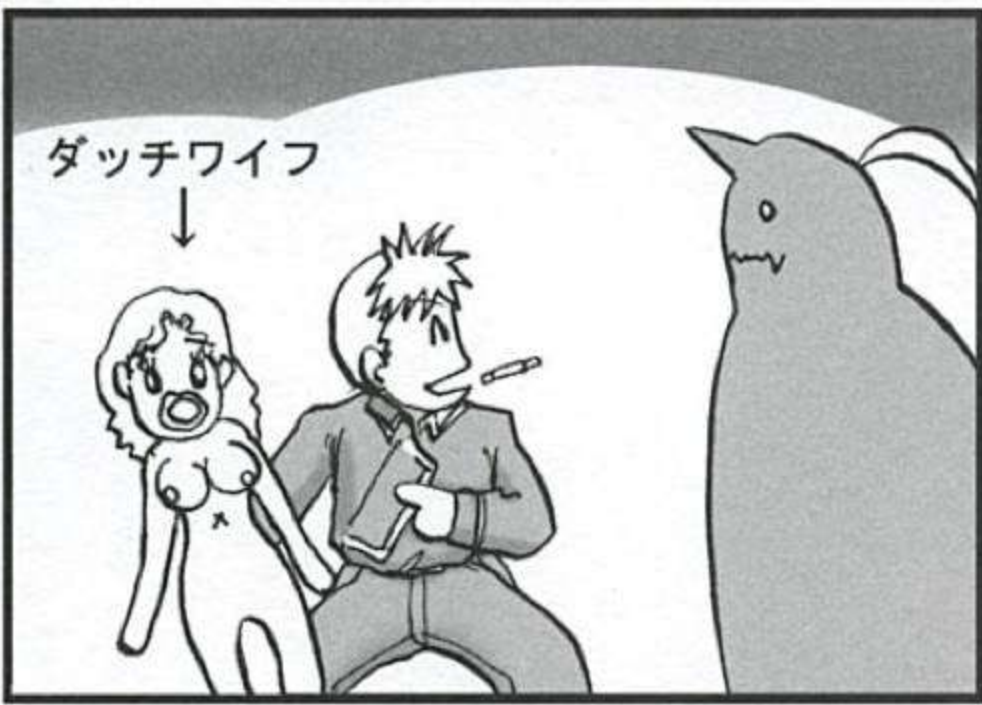
持ってかれたのが  
右腕左足でなく



鎧なんてやめて  
こっちに魂の定着を！



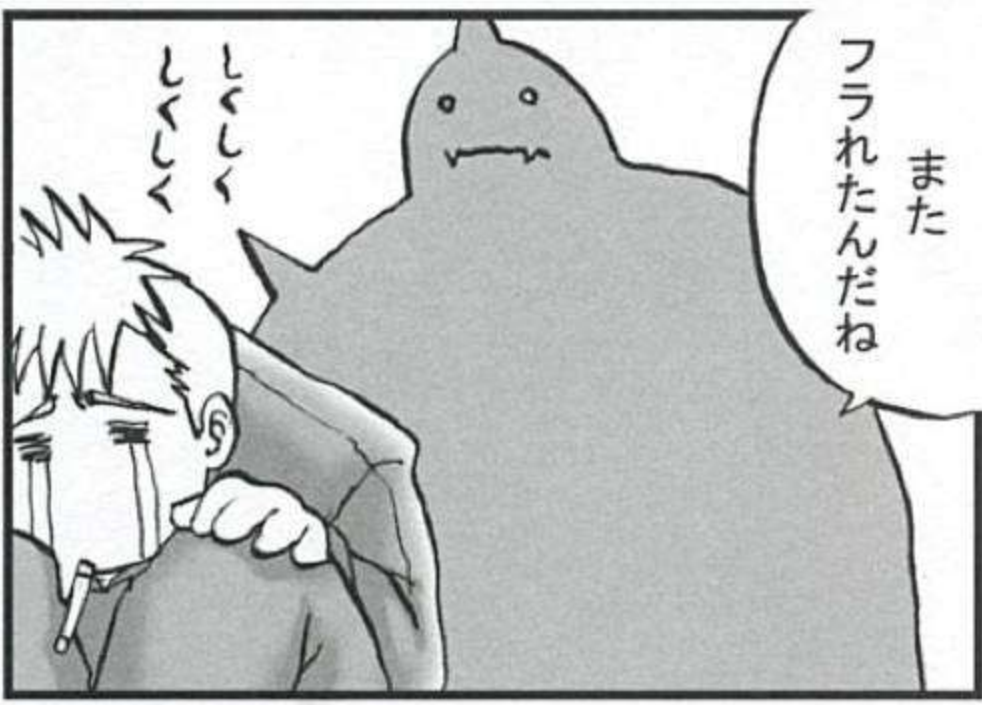
両足だったとしたら



ダッチワイフ  
↓



両足機械鎧で  
背を伸ばすことも  
できたのにな



また  
フラれたんだね



何があったの？

アル、魂の定着  
やり直ししようか…





リン開・眼。  
ランファンがおしおき  
されちゃう漫画とか  
描きたかったー。  
ランファンは自分の中で  
かなりの萌えキャラです。  
あとバンダ（えっ  
今後チャイナキャラがどうかかわって  
くるのかすごい気になるところ。

2004. 7. しなのゆら

軍服でいちゃこいてみよう！

東美輝

しかし…

無能とは酷い  
いわれ様だな

不能よりは  
宜しいかと

…まったく



試してみるか？  
不能かどうか



私はこれで  
失礼しま…



相変わらず  
良い感度だ♡

あ、大佐あ…

ゆづんっ

ぎゅっ





何だ？  
軽くイッたのか

はあ…申し訳いせら  
ませ…ん…



良いだろう  
好きなだけイキ  
たまえ♡



アッ

はぁ

あ……すこ……  
イイ……



は

アッ

アッ



あ

あ

アッ

アッ



失礼します

女のーもー  
少し余韻を  
染みたりな……

☐ オチてませんがな

君が足りない

桐谷 忍

「…っはあ…っ、や…っ」

微かな明かりが灯るだけの薄暗い部屋で、それは行われていた。ベッドが軋む音、鼻にかかった女の喘ぎ声、特定の場所から発せられる粘着質な音…。それらすべてが静かなこの部屋に響き渡る。ベッドの上では折り重なる二つの影。その行為は、かれこれ2時間前から続いていた。

「…っ…っ…たい…っ…さ…っ…！そんなに…っん…あ…っ…！」

女はうつぶせでシーツに顔を埋め、押し寄せる快感に浸っていた。両手にはしっかりとシーツを握りしめて。眉はこれでもかという位垂れ下がり、頬も上気し、ほのかに色づいている。

「中…尉…っ、まだ…だ…っ」

男は彼女の腰を持ち上げ、深々と、激しく突き上げる。彼女のそこは、止めどなく愛液が溢れ、内股を濡らしている。それを気にとめるでもなく、何度も何度も彼女の秘部に、自分のモノを出し入れさせた。肌と肌がぶつかる音と、グチュグチュと淫猥な音が、彼の欲情をますます高ぶらせる。

「大佐…っ！私…っ、もう…っ」

シーツを握りしめる手が一層きつくなる。同時に、彼女の秘部も締め付けがきつくなった。大佐と呼ばれた男の方も、そろそろ限界に来ており、ピストン運動をより激しくする。

打ちつけるリズムと、彼女の単発的に出される声と同じになった。

「中尉…っ、中尉…っ…！」

「だ…っ…駄目…っ、っあ…っ…っあああ…っ…！」

彼女の体がビクビクツツと痙攣した。同時に男も彼女の中にありつたけの精を迸らせた。

「…いい加減にしてくれませんか…、大佐」

疲れきった声で、中尉と呼ばれた女が大佐と呼ぶ男を見て呟いた。声には心なしか怒りがこもっているように聞こえる。

「こんな状況でさえ君は私を階級で呼ぶのかね、リザ。

リザ・ホークアイ中尉？」

ロイと呼んでくれ、と男はリザと呼び直した女に向かってニヤリと微笑む。そういう貴方もでしょうか？と、訝しげにリザは思ったが、あえて口にはしなかった。

「それよりロイ・マスタング大佐、もういいでしょう？すでに2時間も経ってるんですよ？」

体が保ちません、とリザがゆっくりと起きあがる。しかし、体が重くてなかなか思うように動かない。

流石に2時間もこんな激しい行為を立て続けにやっつけていれば、いくら体力自慢の軍人だって限界がある。リザはもうほぼ足腰が立たない状態なのだが、何故か彼女の横で寝転がるマスタングと呼ばれた男は、満面の笑みを見せ、疲れなど微塵も感じさせない。

「え？何を言っている、中尉。まだまだこれからじゃないか」  
そう言っ、ロイは嬉しそうに薄暗い部屋でかろうじて見

える時計を見やった。時刻は夜の8時。つまりこの二人は6時から行為に及んでいたのだ。リザの顔が曇る。

「…どうして…、そんなに私を…求めるの…ですか？」

リザはロイに聞いてみた。…ずっと聞きたかった事だった。別に彼のことが嫌いなわけではない。むしろ恋愛感情に近い思いが心の中にあることは自覚していた。

しかし、ロイに会う度に求められ、幾度も抱かれてきた。それがいつしか、自分が性欲のはけ口となったのではないかと疑問に思い始めていた。

『彼は、私のことを愛してくれているのか』と…。

「私は…、貴方にとって…性欲のはけ口なのですか？」

言葉と共にリザの頬を、透明な雫が流れ落ちる。ロイは黙ったままだった。

何も言わないロイに、リザは自分の立場を思い知らされた。やはり、彼は私を愛してはくれていなかったのだと。

「…変な事を聞いてすみません。今日は先に帰らせて…」

よろめく体に鞭打ち、ベッドから降りようとしたリザの腕を、ロイは横になったまま無言で力一杯引きよせた。疲れきったこの体で反発する力は残っているはずもなく、リザの体は軽々とベッドに舞い戻った。

「大…!!!」

少し怒った声で彼の階級を呼ぼうとしたが、ロイが突然リザを抱きすくめた為、言葉は途中で途切れてしまった。しばらく沈黙が続いた。

「…りないんだ…」

え？と、リザはロイの顔を見上げる。そこにはいつもの自信たっぷりな不敵な笑みはなく、眉をひそめ、どこか苦しそ

うな表情のロイがいた。

「君が…、足りないんだ。抱いても抱いても…、足りないんだよ…」

困ったように微笑むロイの、言っている意味がよく理解できない。リザはロイの次の言葉を待った。

「…私は無能だからかな、肝心な事をいつも言えないでいるんだ」

リザを腕に抱きしめながら、ぽつりと呟く。

何となく分かっていった。彼女が日に日に自分を警戒し始めたのが。リザがロイにとって性欲のはけ口ではないかと思いはじめてから、彼女はロイの誘いを断るようになった。

そうとは知らず、上司命令などと偽り強引に連れだしては、何度も彼女を求め、貫いた。自分の中が、リザで満たされたのが為に…。それが結果、リザに誤解を与えてしまっていたことに、今更ながら気付いたのだ。

「…今頃こんな事言うのは本当に遅いんだが…、中尉」

彼女からそっと腕を外し、そのまま肩を掴んで、ロイは静かに口を開いた。

「ずっと…、君のことが好きだった…」

言い終え、気恥ずかしくなってロイは少し俯いた。これ以上情けない姿を見られたくないと、ロイはもう一度リザを抱きすくめる。顔を見られないように。

「大佐…」

腕の中で、リザがぼそりとロイの階級を呼ぶ。

「自分の中が…、君でいっぱいにならないと耐えられなかった…。だからずっと君を求めた…。体を求めれば、愛されていると思ってくれると思っていた。だから君を抱き続けた…」



すまない……、とロイは微かに呟いた。リザは微動だにしなかった。

「……はは、情けないな……。私としたことが……」

言いかけた言葉は、リザの唇によって塞がれた。彼女の腕がロイの首にかけられる。しばらくそのままの状態が続いた。

「……もう、いいです……。大佐がそんなにも思ってた下さつてたとは思わなくて……。私の方こそごめんなさい……。貴方を信じられなかった……」

ゆつくりと唇が離れ、リザは涙目でロイに精一杯微笑む。

その顔に、ロイは一瞬ドキリとした。リザはこぼれ落ちる涙をこらえながら、ロイの顔を愛おしそうにそつと撫でた。輪郭をなぞり、手に彼の感触を残す。

そして、お互いの目が再び合った時、リザはごく自然に、ロイに口付けた。ロイもまた、それを甘んじて受ける。ようやく、お互いの気持ちを通じ合った瞬間だった。

「……やつと、君が私を満たしてくれたような気がするよ」

唇が離れ、半ば名残惜しそうにロイが微笑む。しかし、その笑顔は先程までと違い、満ち足りたように見えた。その表情に、リザも安堵する。

「おや、もうこんな時間か」

ロイがまた時計の方を見る。

時刻はもう9時になろうとしていた。

「もう遅いですね。明日も仕事があることですし、私はそろそろ……」

じっとしていたことで小回復し、少しだけ楽になった体を起こし、リザはシーツを掴んでベッドを降りようとした。が、

「明日は休みだろう？中尉」

リザが体に巻き付けたシーツをグツと掴み、ロイはいつもの不敵な笑みを浮かべた。ふと、彼女の中で嫌な予感が駆け抜ける。

「大佐……、まさか……」

「そ、勘がいいね。奇遇だな、私も休みなのだよ」

にっこりと微笑み、シーツを力一杯引き寄せた。いとも簡単に、リザの体はロイの手元に転がり込む。素早くロイはリザの体を捕らえ、勝ち誇った顔でリザの耳元に呟いた。彼が女性を口説くときに使う、吐息にも似た、甘い声で。

「今夜は帰さないよ、リザ」

ニツと笑ってロイはリザに口付けた。突然のキスに、リザは思わず目を見開く。わざと音を立てて、何度も何度も口付ける。

「大……！さつき満たされたって言ったじゃ……」

ようやくロイの執拗な口撃から解放され、リザが反発する。

「ああ、確かに満たされたよ。でもね、まだ足りない」

彼女の細い腰を引き寄せ、手をそつと豊満な胸へ滑らせる。「んっ……」

とリザは微かに声をあげた。体も正直にびくりと反応する。「ずつと……、私の傍で、私を満たしてくれるかね？」

彼女の両手を束ね、頭の上に持っていき、片手で押さえつける。そしてロイはリザの体に覆い被さる様に身を起こした。彼女の両足の間に自分の身を割り込ませ、抵抗されないように組み敷く。

「どうやら私は、君にしか治すことの出来ない重度の不治の病に冒されているようだ」

言葉を発しながら、ロイの唇はリザの首筋から胸の方へと伝い降りた。

「っんん…っ」

くぐもった声でリザが体をくねらせる。構わずロイはリザの胸の突起に吸いついた。

「ひあっ！」

思わず首を反らすリザ。ロイはその突起を激しく吸い立て、時に甘噛みした。口の中で、突起が固くなるのを確かめる。唾液をたっぷり塗りつけ、舌先で軽く突いたり、突起全体を舐め回した。

「あ…はあ…」

リザの全身にしびれが行き渡る。抵抗する気もなくなったのか、リザは力を抜いて全身をベッドに預けた。

こうなると、ロイも手を押さえつける必要がなくなったので、リザの両手を自由にした。

「大佐…、重度の…病って…？」

息も絶え絶えにリザが呟く。ロイは舌で弄んでいた突起から唇を離し、見上げるようにリザに微笑んだ。

「sub・lieutenant deficiency…」

呟いて、また唇を胸に戻した。瞬時にリザの顔が赤くなる。「君が私をこの病にさせたんだ、一生をかけて、責任をとって貰わないとね…」

左の手をリザの胸に持っていき、下からすくうように撫でた。そして右手の指の腹を彼女の体にそっと乗せ、下腹部へと滑らせていく。

「だっ！駄目です！！大佐！」

彼女の拒否もむなしく、ロイの指はいとも簡単に秘部へ到

達してしまった。そっと撫でると、くちゅつと粘着質な音と共に、しっとり濡れた愛液がロイの指に絡みつく。

ああ…、とりザは思わず両手で顔を覆った。何だかんだ拒否しても、体は正直だった。濡れた秘部が、彼を愛し、受け入れる覚悟が出来ていることを証明していた。

「中尉…、綺麗だ」

そっとリザの臉に唇を寄せる。そして、秘部に当てたままの右手をゆっくりと動かし始めた。

「んあっ！！」

リザの体がビクツと強ばる。豊満な胸はそれと共に上下に揺れた。中心部の突起はこの上ないほどにそり立っている。

ロイの腕を掴み、快感を必死で耐えるリザの顔を見ながら、ロイは更に動きを強くした。

止めていた左の手もゆっくりと、時に激しく乳房を愛撫した。「…あは…っ、ああ…」

頭を支えていた枕を引きずり出し、顔の前で力一杯抱きしめる。恥ずかしさと、次々襲って来る快感を見せまいと、リザは必死だった。

その態度を可愛いと思いつつも、やはり顔が隠れてしまうのが嫌なのか、ロイは乳房を弄んでいた左の手でそっと枕を取り除いた。

「やっ…、大佐…困ります…」

枕の下から頬を上気させ、瞳を潤ませたりザが顔を覗かせた。眉を下げ、まだなお枕を離そうとしない。

「私も困る。君の顔が見れないとね…」

そう言うなり、ロイはリザの秘部にグツと指を挿入した。的確に彼女の性感体を刺激する。

これにはリザも参り、悲鳴に似た声をあげ、枕に込めていた力が抜けてしまった。目ざといロイがこれを見逃す筈もなく、枕を素早く掴み、ベッドの下へと放り投げた。

しまった、という顔でリザが枕の軌道を目で追う。枕はぽすつと情けない音を出して、床の上に転がった。

「…君が私を感じてくれていて顔を、いつも見ていたんだ…」

右手の動きを止めずに、リザの顔にいくつもキスを落とす。ちゅぷつ、くちゅつとロイが挿入した指を動かす度、リザの下腹部から音が発せられた。その音は充分リザの耳にも聞こえている。

「や…っ…、は…恥ずかし…いつ」

これ程卑猥な音が自分の下腹部から発生していることに、リザは耐えられなかった。耳を塞ぎたいが、あまりの気持ちよさに何も出来ないでいる。両腕を胸の前でクロスさせ、指先を軽く噛む。寄せられた胸が、腕の間から今にも弾けてしまいそうだ。

無意識にやっているのだろうが、この行為がロイの性欲を更に高める結果となった。今度は激しく出し入れさせる。勿論、同時に性感体を刺激することも忘れずに。

「たっ…大佐…っ！そんなに…動かしたら…っ！！」

吐息混じりにリザが声をあげる。まだ指しか入れてないのに、きゆうつと内部が締め付けられた。音も次第に大きくなり、手の速度も速くなる。

「あっ…や…、だめ…っ…そこは…！！」

リザはロイの手から逃れようとするが、前の行為で疲労している為体がうまく動かず、逃れても彼は執拗に追ってくる。

ロイは、挿入していた指をクツと上に曲げた。それを数回繰り返す。くぶくぶと連続して音が響いた。秘部からはどんな愛液が溢れ出ている。

「んっ…あはああっ！！」

不意にリザの体が小さく痙攣した。どうやら軽くイッたようだ。はあはあと肩を上下させ、呼吸を整える。

「中尉…、その…そろそろ君の中に入りたいの…だが…」

気怠そうなりザを見て、申し訳なさそうにロイが頭を掻いた。先程から中尉の乱れっぷりを目の前にして、我慢の限界が来ていた。しかし、リザがあまりにも辛そうだったので、ここで断られれば潔く引き下がるつもりでいた。

半ば諦めつつ、ロイはリザの言葉を待った。と、するりとロイの首に手が伸びてきた。リザだ。

「あの…、私からも…お願い…しま…す…」

リザの声がロイの耳元で囁かれる。思わずロイは目を見開いた。彼女から求めてきたのはこれが初めてだったからだ。

「いいの…かな？」

散々了解も得ずに求めていたというのに、今頃確認を取る。それほど彼女の誘いが貴重だからだ。

「…何度も言わせる気ですか」

少し膨れた声でリザがロイを見上げた。最愛の女性が勇気を出してここまで言ってくれているんだ。

やがて意を決したようにロイがそつとリザを横たえる。

「求めた以上、私は止められないぞ？」

これが最後の忠告だ、とりザの目と鼻の先に顔を近づけた。ゆつくりと、彼女の首が縦に振られる。それを確認すると、ロイはすかさず秘部に指を当てた。もう充分に濡れている。

「じゃあ…、行くぞ…」

充分膨れ上がった欲望の固まりを彼女の秘部にあてがい、深く静かに挿し入れた。リザの中は少しきついが、濡れているため何の抵抗もなくすんなりとロイを受け入れる。

粘ついた音が互いの体に響く。

「…っあ…はあっ…」

リザが少し苦しそうに息を吐く。額にもいくつか水滴が浮かんだ。何度も彼と交わっているはずなのに、そこはいつまでも慣れることなく、常に処女の時を思わせるほど狭かった。辛そうなりザに、一抹の不安が残る。

「動いても…いい…かな…？」

申し訳なさそうにロイが問いかける。実は今挿入している状態で、リザがキュツと力を入れるようなことがあれば、彼はいとも簡単に昇天してしまいそうなのだ。それほど彼女の中がロイにとって最高だった。

しかしそれでは男として情けない。最早ロイに大佐としての威厳はなかった。そこには、ただ愛する人を心配する一人の男がいるだけだった。

先端だけリザの中に残すように、ロイはそつと体をずらす。ずるりと動くことで結合部分が擦れ、リザに新たな快感を与える。

「…何を…今更…。大佐らしく…ありませんね…」

息を乱してリザがロイに微笑みかける。いつか彼に言ったことのある台詞を、リザは口にした。

何があっても、彼についていくと決めたあの日と同じ台詞。

「ふっ…、そうだな。いつ君に見限られないか気が気でないのでね」

彼女の言葉を肯定と解釈して、ロイは再びリザを貫いた。短い悲鳴があがるが、ロイが動きを早くした為、それは粘着質な音によってかき消された。

「あああっ！！大佐…っ！！」

繋がった二人の間からロイが出入りする度、じゅぶつ、じゅぶつと淫猥な音を奏でた。

たまらなくなつてリザがロイの首に手を回し、ぎゅつと力を込める。少し自由がきかなくなつたが、力でロイに勝てるはずがない。構わずロイは何度も突き上げた。

「いや…っ、たい…さ…っ！っは…っ…」

顔を仰け反らせてリザは喘いだ。自慢の胸は突き上げられる度に上下に揺れる。ロイは舌先で固く尖った突起を吸った。あつ！と単発的な声がリザからあがると、ロイを包む肉壁がキュツと収縮した。ロイは必死に沸き上がる欲望を抑制しながら、出し入れを繰り返す。

「だめ…っ…、おかしくなつてしまいそう…っ！」

リザの腕に力が入る。ロイの顔はすでにリザの胸の谷間に埋められていた。顔を両サイドから乳房に挟まれ、ロイは少し苦しかった。わずかな隙間からかうじて呼吸する。

その息が敏感になつたりザの肌に触れ、ますます感情を高ぶらせた。

「大佐…っ、今度は…私が…上に…っ」

どこでそんな技を習得してきたのか、リザはロイと繋がったまま、器用に身を反転させる。

ロイはベッドに背を預け、リザがその上に乗る体制になつた。

「ちゅ…中尉！？」

思わず素っ頓狂な声をあげる。こんなにも積極的なリザは見たことがなかったからだ。ロイの広い胸板に手をつけて、リザがゆっくり上下した。

「っう…あ」

たまらずロイは声をあげた。いつも受け身ばかりで慣れないせいか、リザの動きはどこかぎこちないが、それが逆にロイを刺激した。

目の前では、上下に揺れる二つの胸と、快感に耐えながら腰を使うリザの姿。

「…っはあ…っ、た…大佐…？」

リザが動きながらロイに話しかける。この上なく、美しい笑顔で。

「気持ち…っ、いい…ですか…っ…」

今までの行為中に見せたことのないリザの笑顔に、ロイの胸は熱くなった。彼女の顔に、そっと手を添える。

「ああ…、凄く…いい…よ…」

にっこりと微笑み返す。するとリザも安心したのか、よかつた…と呟く。普段の彼女からは想像できないが、それをかなぐり捨てても自分を気持ちよくさせたいというリザの気持ちが嬉しかった。

ロイはリザの腰に手を回し、自らも腰を突き上げ始めた。

「っひや…あううっ!!」

ビクンツとリザの体が跳ね上がった。そのままロイの胸に倒れ込む。しかしロイはそのまま更に突き上げた。

「あああっ…!!」

リザはロイの上でもがいたが、腰がロイによってがっちり捕まれている為、逃れることが出来なかった。

「あっ…、はあっ…、やあっ…、んうっ…」

突き上げるリズムとリザの声が重なる。もうリザは立つことが出来ないでいた。ロイの胸で手を握りしめ、下から突き上げる衝動を受け入れている。

ロイの方も、締め付けがきつくなるリザの中と、自分の胸の上で振動によって押しつけられた彼女の胸の感触が重なり、限界が来ていた。

「はあ…っ、たい…さ…っ、もう…っ」

そろそろ限界だということをお口に、感じながらもリザはロイの唇を求めた。

ロイも了解したのか、リザの唇を塞ぎ、腰の速度を上げる。粘着質な音はひっきりなしに二人の結合部分から発せられ、静かな部屋に響いた。

「中…尉…っ…、一緒に…っ」

「大…佐…っ、大佐…っ!! 来て…くださいっ!!」

リザがロイの背に腕を回し、しっかりと抱き留める。

ロイもまた腰を、掴んでいた手に力を込め、自分とリザの体をより密着させた。

「やっ…ああああんっ!!」

絶叫の後、リザの体の力が抜けた。小さく痙攣する。ロイもありったけの欲望をリザの中に吐き出し、果てた。

二人は数分呼吸を整えた後、そのまま深い眠りについてしまった。

「…んう…」

どれくらい時間が経っただろう。外はすでに朝日が昇り、

薄暗い部屋は日の光が差し込んで明るくなっていった。ロイの胸の上で眠い目をこすり、上半身を起こそうとする。

長い金髪が、さらりと肩を流れ落ちた。

「…大佐…？」

先に起きたのはリザだった。今なお幸せそうに眠る眼下の男に、リザはそつと口付けた。

しかし余程疲れたのだろうか、なかなか起きる気配がない。

「…ロ…イ…」

聞こえないように微かな声で、リザは初めて男の名を呼んだ。役職上、ロイはリザの上官にあたる。

仕事に忠実な彼女は、どんなことがあっても彼の名前は口にしない決めていた。

だが、せめて今だけはただの男と女でいたい。こんな風に相手が眠っている時しか、リザは名前を呼べなかった。

「…初めて、名前を呼んでくれたね」

突然ロイの目が開き、リザの綺麗な髪を手で梳いた。

「大佐！お…起きてたんですか！？」

「さつきね」

してやったり、と言いたげに、ロイはリザに向かってにっこりと微笑んだ。ひどい、とむくれるリザ。

「…満たされましたか？」

微笑み返し、ロイの顔に手を添えてリザが問う。その手を取って、ロイも答えを返した。

「ああ…、満足だよ、リザ」

そのままお互い見つめ合い、どちらからともなく口付けを交わした。

「さあ…、そろそろ起きない…と…っあうっ！」

名残惜しように唇を離し、ベッドから降りようと体を動かしたりリザだったが、ビクツと身を強ばらせ、硬直する。

二人はお互い果てた後、そのまま寝てしまった。つまり、未だ二人は繋がったままなのだ。ましてリザが起きあがったことにより、結合部分が刺激され、ロイのモノがリザの中で膨張してしまった。

「大佐…、…満たされたんですよね？」

嫌そうにリザが改めて聞く。

すかさずロイはにっこりと微笑み、

「満たされたよ？…昨日はね」

起きあがるために離れていたリザの体をまた胸に引き戻す。これはまずい、とリザは直感した。その予想は悲しいことに、見事に当たってしまった。抵抗を試みるが、それもすべて無駄に終わる。

「忠告したはずだよ？『求めた以上、私は止められない』と

…。忘れたわけではないよね？」

にっこりと微笑み、ロイは、それとこれとは違います！と

わめく彼女の唇を自らのそれで塞ぐ。

こうしてまた、同じ事が繰り返される。

抱いても抱いても 君が足りない  
愛しても愛しても 君が足りない





それはもう溜まっているのだよ!!

オレがこらえてるのか!!

.....っ

そっ  
そういうのは  
御自分で処理して  
下さいっっ!!

くわっ

女中様。



断る

きっぱり

君のかわいい喘ぎを聞かないとイけないものでね

お相手ならいくらでもいるでしょう?

めがし

めがし

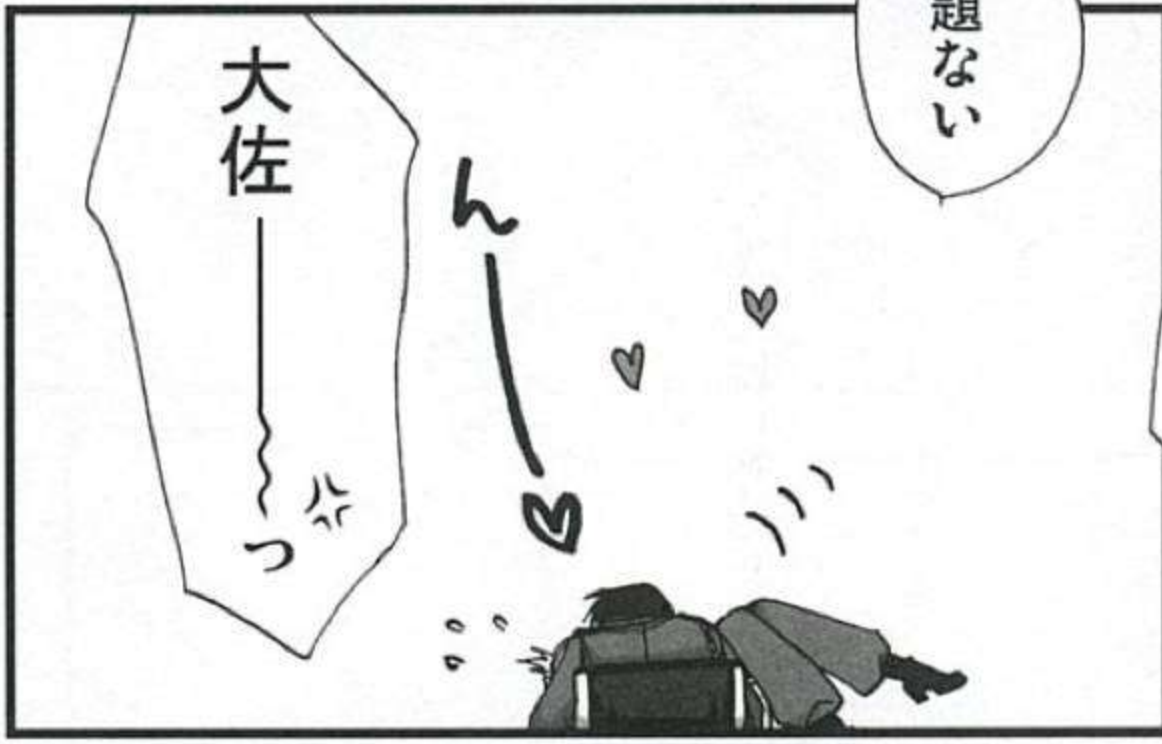
「君」でなければいけないのだよ  
中尉



んっ

ちゅっ





あれ？

カリキヤツミ

お食事は  
いいんですか？  
大佐

いや…  
この仕事を  
終わらせてからに  
しようかと

はあ…

珍しい事も  
あるんだな

野々A

忘れものかね？

あっはい

会議用の  
資料を…

そうか

あれ…

たしかここに…  
えーっと…

ぜはー

てか早く  
行け！！

あ…  
危なかった…

ぜはー

ぜはー

ぜはー



すいません  
大佐  
ご存じない  
ですか？

あー…

そういえば

うー…  
血圧が  
下がる…



ハボック少尉が  
まとめて持って  
行ったような  
気

がっ



…  
…

ぽんぽん…



ち…

中尉…!?



少しは  
頭を冷やして  
下さい

うお…



も...  
申し訳  
ありませんっ

はは...  
しっかり  
してもらわないと  
困るよ

あ、  
そういえば  
たしかに少尉が  
持っていましたね

あ  
では資料室の方に  
行ってみます

310  
310  
310

70  
70  
70



失礼します

くっ

クッ  
クッ  
クッ  
クッ

カタン  
カタン  
カタン

クッ  
クッ

クッ  
クッ

は

ほんとに…

溜まってらしたん  
ですわ…

君は本当に  
やってくれるわ

これに懲りたら  
指令室での行為は  
やめて下さいね

カ  
ニ  
！

あ…

そっ…

そんなこと  
ありません…

そんなこと  
言って

君もこの状況を  
楽しんでいたのでは  
ないのかね？

や…

は  
っ



こんなに濡れていては

説得力がないぞ

は...

ちゅぽぽ

えろ

たいっさ...

汚な



あっ♡

おちゅぽぽ

あ...

は...

ふあっ...あ♡

ちゅぽぽ

ちゅぽぽ



あ...

はあ

すごい  
乱れようだな

は...

君だって溜まっていたんじゃないか

そんなんっ...あっ

ちゅぽぽ!

あああ♡

70 70 70

すみまっ…せ

あっ…は  
久しぶりなの…で

あっ

70 70 70

す…

70 70 70

感じすぎてっ…  
加減っ…が

そんなに  
締め付けられたら

長く  
もたんよ

70 70 70

う…

もう少し  
力を抜いてくれないか

あっ  
は…

は…

70 70 70



分からなっ  
あっ♡

んっ

んふう



んっ…ん

んっ

んっ

んっ

んっふう

んん♡

っは…あっ



あっ

たいっさ…

あっ♡

んは♡





なっ...あ!?

賭けてみようか

そうだな

大佐っ  
気配がっ...

声を出せば  
気付かれるぞ

ふっんっ…

んっ

コエ

ナ

んっふ

んーっ

んっ  
んっ  
んっ

んっんん

んっ  
んっ  
んっ

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

んっ

んっ  
んっ  
んっ

んはっ

は…っ

あ…は

かっ

は  
は

っ…

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん

ん  
ん  
ん



ふあああ



くはっ

はっ...あ

は...

あっ

とっ  
とっ  
とっ

早っ

危なかった  
ですね…

…

いっせー

カッ

ゴッ

シヤクリーン

ゴッ…

即・答

冗談  
言っていないで  
さっさと支度  
して下さい

大佐の  
お前さんに  
なにですか…

ゴッ…

ゴッ…

そうだな

ならいっそのこと  
結婚してしまうと  
いうのはどうかな？

大佐

既成事実…

まったく  
あなたって人は  
何を考えて  
いるんですか!!

おかし  
なもーん

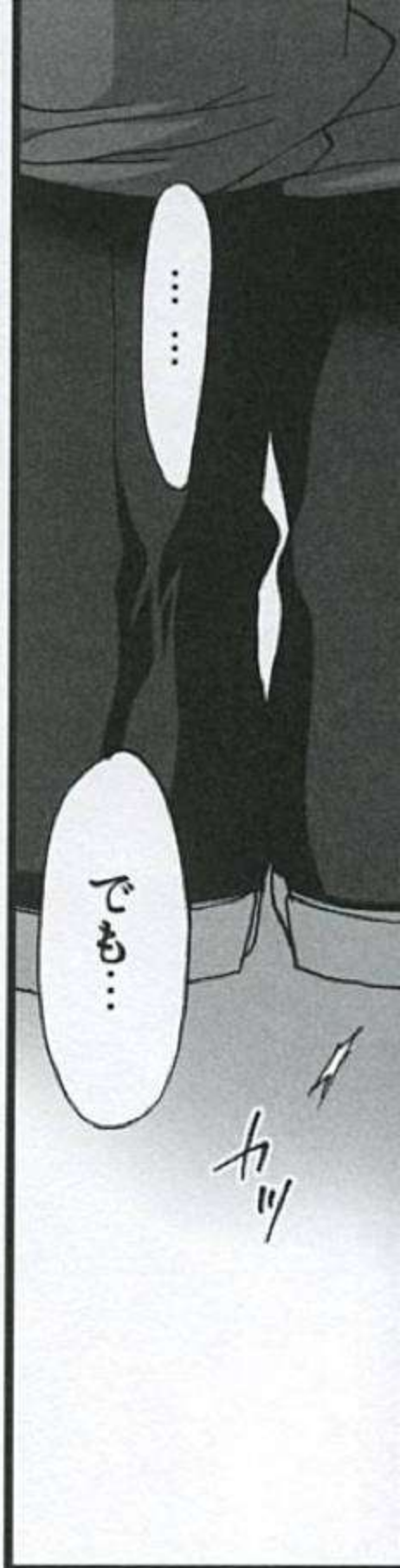
いっせー

子供が出来たら  
どうするん  
ですか!?

いいねえ  
きつと美人に  
なるよ



ファーストレディ  
大總統夫人になら  
なくてもいいですね



でも...

カッ



一般市民の  
目撃情報に  
よりますと

ああ、  
水道管がって  
やつか？



中っ...

あ、  
そういえば  
先ほどの報告書  
きちんと目を通して  
おいて下さいね

かたっ



お供します。

その日のために

人違いでした。





アルが人間にもどって—  
皆ちょっとおっきくなって—  
兄弟×ウィンリィでぐるぐるな  
パラレルを描いてみたい…。  
もんもんもん





**GEKIAI-MERRY-GO-ROUND**

2004 FANTASY WIND  
FULLMETAL ALCHEMIST BOOK





## FANTASY WIND

+++++

イベント参加予定

9/19(日) サンクリ

9/26(日) ZENKOKU3

鋼オンリー

10月 C・レヴォ

10/31(日) 技師と豆

12月 冬コミ

# ++ゲスト様コメント++



## 高苗京鈴様v

めさめさかわいい原稿  
ありがとうございましたv  
言い合ってるうちに  
もやもやしちゃうのが  
2人らしいですね！  
最近のエドさんは男らし  
すぎていろいろ困ります(笑

お誘い頂き  
有難うございますv

最近のエドさんはちょっと  
格好良過ぎますネ(笑) 苗。



アルウィンにみせかけた  
エドウィンな  
アルエドです。ウソです。

エドの髪型を  
ちょっとのびて・ちょっとまとめる  
感じにして描きたかった  
うつーことで。

ゆーやん

2~4人でいろいろやってまーす。  
『悪漫画大王』<http://love2.com/akuman>



## ゆーやん様v

すみません、大爆笑でした(爆  
さけちゃうて!!w  
ウィンリィ大変ー!!  
今回はも凄いい世話に  
なりました。  
ゆーやんいなければ  
原稿終わんなかった…(ヒィ

# ++ゲスト様コメント++

## 浙佐拓馬様v

あわわ、恐縮です；  
 ハイクオリティな原稿  
 ありがとうございましたv  
 何気に大佐の変態っぷりが  
 笑えますw  
 いろいろ中途半端なゲス原を  
 描いちゃいましたが  
 もらってやって下さい~



しなの先生  
 今回はお誘いありがとうございました。  
 そして私の同人誌にも原稿を寄せて  
 いただきましてとっても恐縮です。  
 〆切等ご迷惑もおかけしてしまって  
 申し訳ありませんでした。  
 そしてしなの先生ファンの皆さん初め  
 まして。Neo Frontierの浙佐拓馬と  
 申します。私もこの夏コミで3冊目の  
 小ガレン本を発行いたしました。  
 もしどこかで見かけたらよろしければ  
 ご覧になってみて下さい。

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~n-frontier/>



## けこちゃ様v

どもです。けこちゃです。  
 この度はゲストに呼んで下さって有難う御座いました！  
 な、なににあんなまっちゃん原稿で  
 ほ、本当ゴメンナサイです…っ！！  
 この埋め合わせは身体でしますんで…。  
 絶倫けこちゃ。

忙しいのに描いてくれて  
 ありがとうございました！！  
 ぜひ身体でいろいろ埋め合わ  
 せて頂こうと思います（笑  
 お互い余裕ができたら  
 今度こそお買い物行こうね~

## うげっば様v

お忙しいところ無理に頼んで  
 しまってすみませんでした；  
 でも凄いかわいいウィンリィ  
 ありがとうございます！！  
 おかあさんみたいな  
 ウィンリィが大好きですv

●お誘い頂きまして有り難うございます。

ボリューム感が足りなくてスイマセン…

大坂魂・うげっば

<http://kikyuu.sakura.ne.jp/~loveyama/>



## 服部ミツカ様v

アイたん夏休み中。  
 お招き有難うございます！  
 当初はアイ陵辱とか  
 したかったのに… あれ？

お疲れさまですー  
 もうさすが服部さんとか！！  
 アムキャスでーと言った時は  
 どんなことになっちゃうのかと  
 思いましたが、かなり大爆笑  
 でしたw  
 お兄さまが素敵すぎる…ww

◆◆◆ <http://senyou.net/~hone69/>

# ++ゲスト様コメント++

## 目黒様v

ノーマルカップリングでーと言ったら「じゃあシグイズミ」描くーとか言って原稿用紙の手前半分にシグさんのお尻描かれた時はどうしようかと思いましたw 見開きでとか言われた日にゃあ(爆 それはそれで見たかった気も。

ゲストに呼んでいただいてありがとうございました。  
最初シグとメイスンのエロとかロアとドルチェットのエロとか描こうとしたけど  
ゆらりん却下が入ったヨ。  
ホモ以外描くの久しぶりだわ~☆

目黒

<http://meguro.e-city.tv/>  
(注) 18禁ホモエロサイトです



この度はステキ御本にお誘い有難うございました！  
ダイスキーvなオフタリサンでムチュムチュ描けて  
楽しゅうございましたvvvうへへ  
とはいえ、大佐をもう少しオッサン臭く描きたかったかな…(え) 精進しますよー！  
んでは、またイベント会場で鋼話してくださいませv

東美輝

<http://poppen.cside4.com/poppen/>  
(サイトは三国無双や蒼天とかオッサン絵ばっかです…)



## 東美輝様v

わー！  
大佐がすごい男前っスよ！！  
原稿もらった時動機息切れが大変でしたw  
またイベント会場等で怪しく鋼話しましょうー！  
ネタはもうもっさり  
ありますよー。ぐふふ…

## 桐谷忍様v

大佐が…！大佐が…！！w  
凄い絶倫っぷりで中尉も  
大変ですよーw  
桐谷さんの小説が凄い好き  
だったのでお願いしてみましたv 無理な注文にも関わらず  
エロス書いて下さって  
ありがとうございましたv

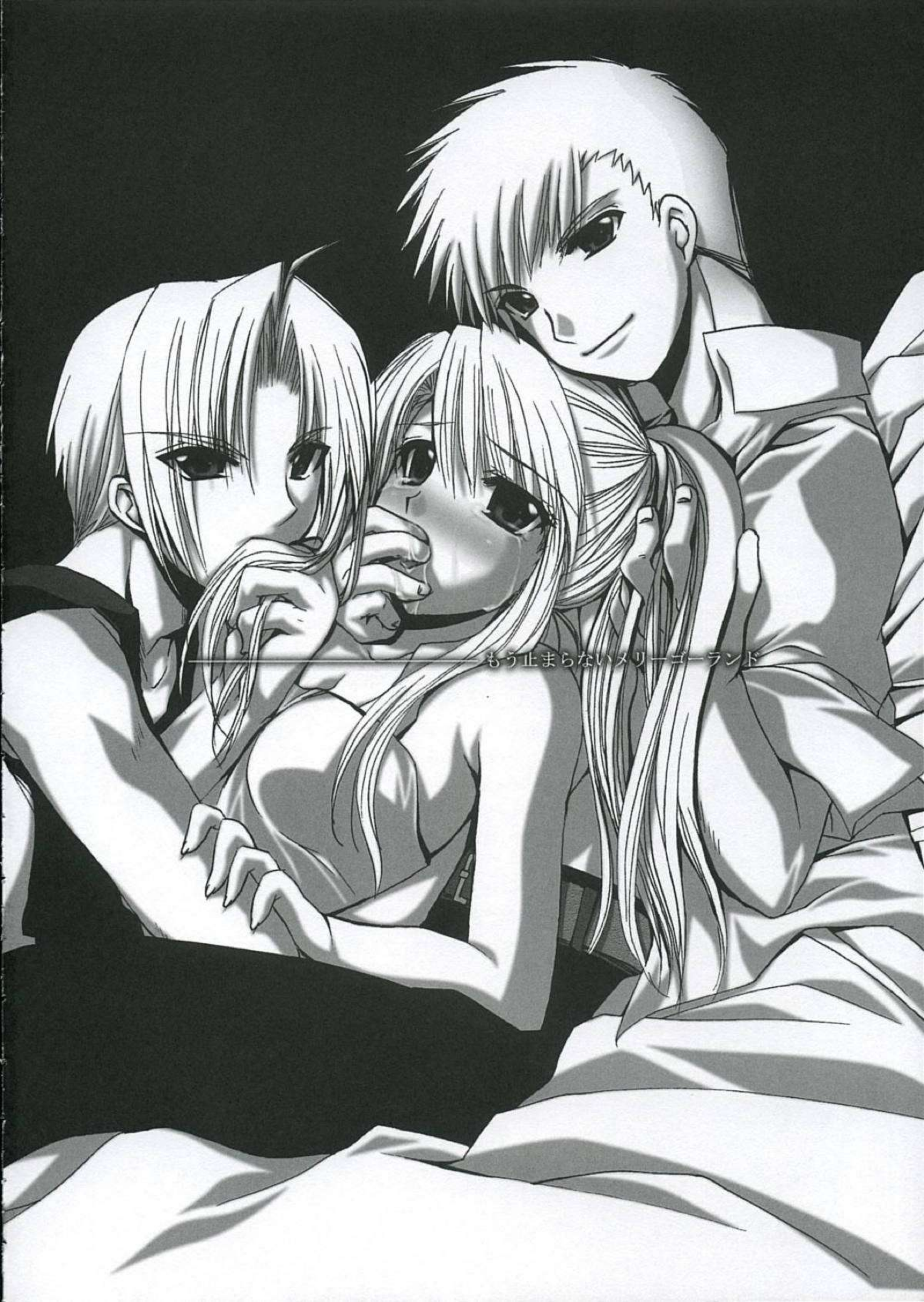
お誘い有難うございました！！

ロこの度は私なんぞを呼んで下さり有難う  
ございました！！大変光栄でございました。  
にも関わらずハポクマスマセン…  
皆様においてもお気に召すかどうか…  
ともあれ有難うございました-!!  
桐谷忍でしたv

HP URL: <http://www.geocities.jp/shinobu1215jp>



本当に皆様  
ありがとうございましたw  
by しなのゆら



もう止まらないメリーゴーランド

# ATOOGAKI

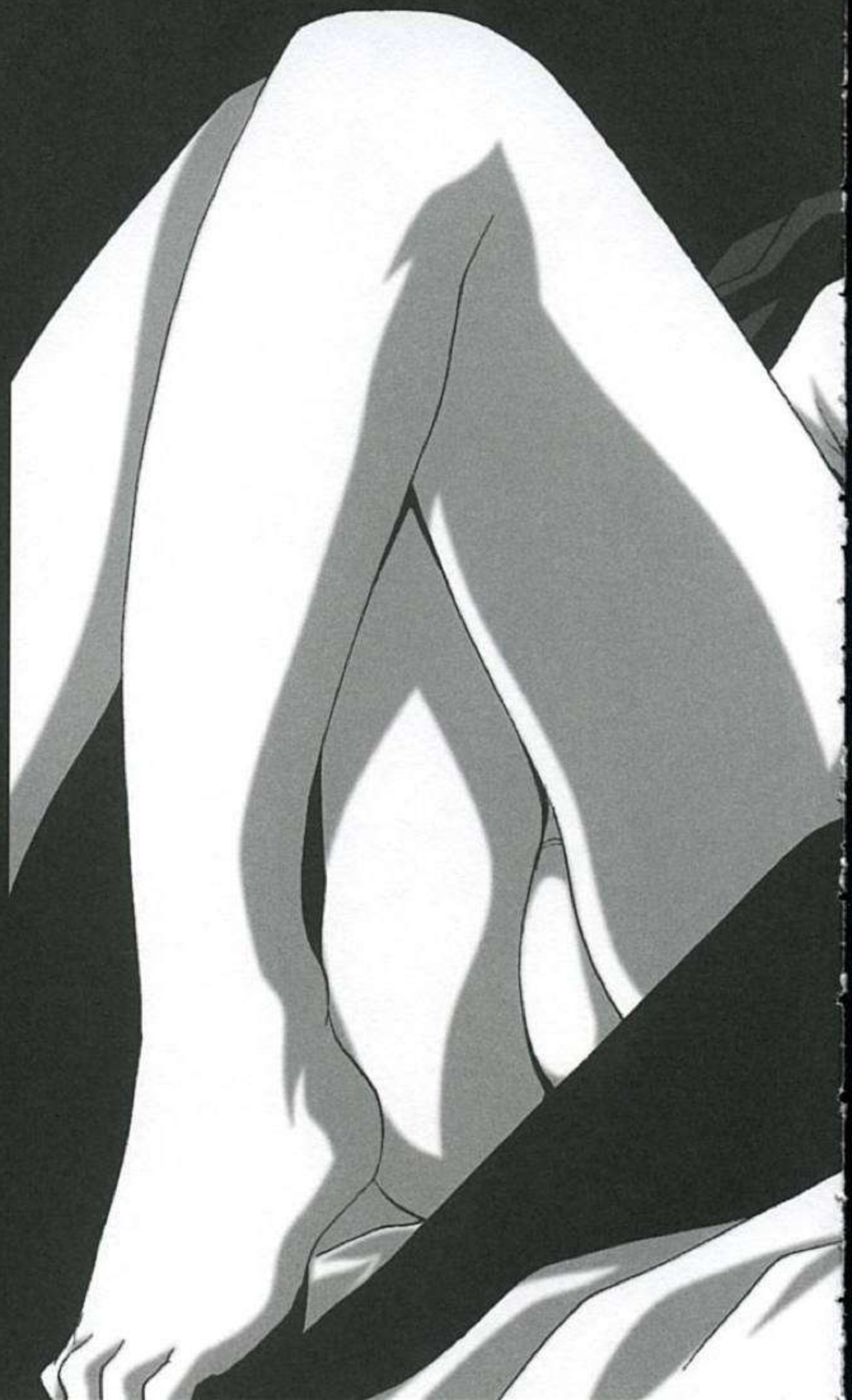
うをーんうをーん  
いろいろやりすぎました。  
凄い迷惑かけまくりでした…。  
ごめんよう…ごめんよう…

今回描いてる最中に自分の中で  
どんどん描き方が変わってきて  
何度も修正とかして  
そりゃ終わんねえよギャー！！って  
感じでした…。  
でも得られたものは大きかったです。  
初心を思い出したような。  
あとは早く描ければ良いのよ  
早く描ければ…。うーんうーん  
とにもかくにもお疲れさまでした！！

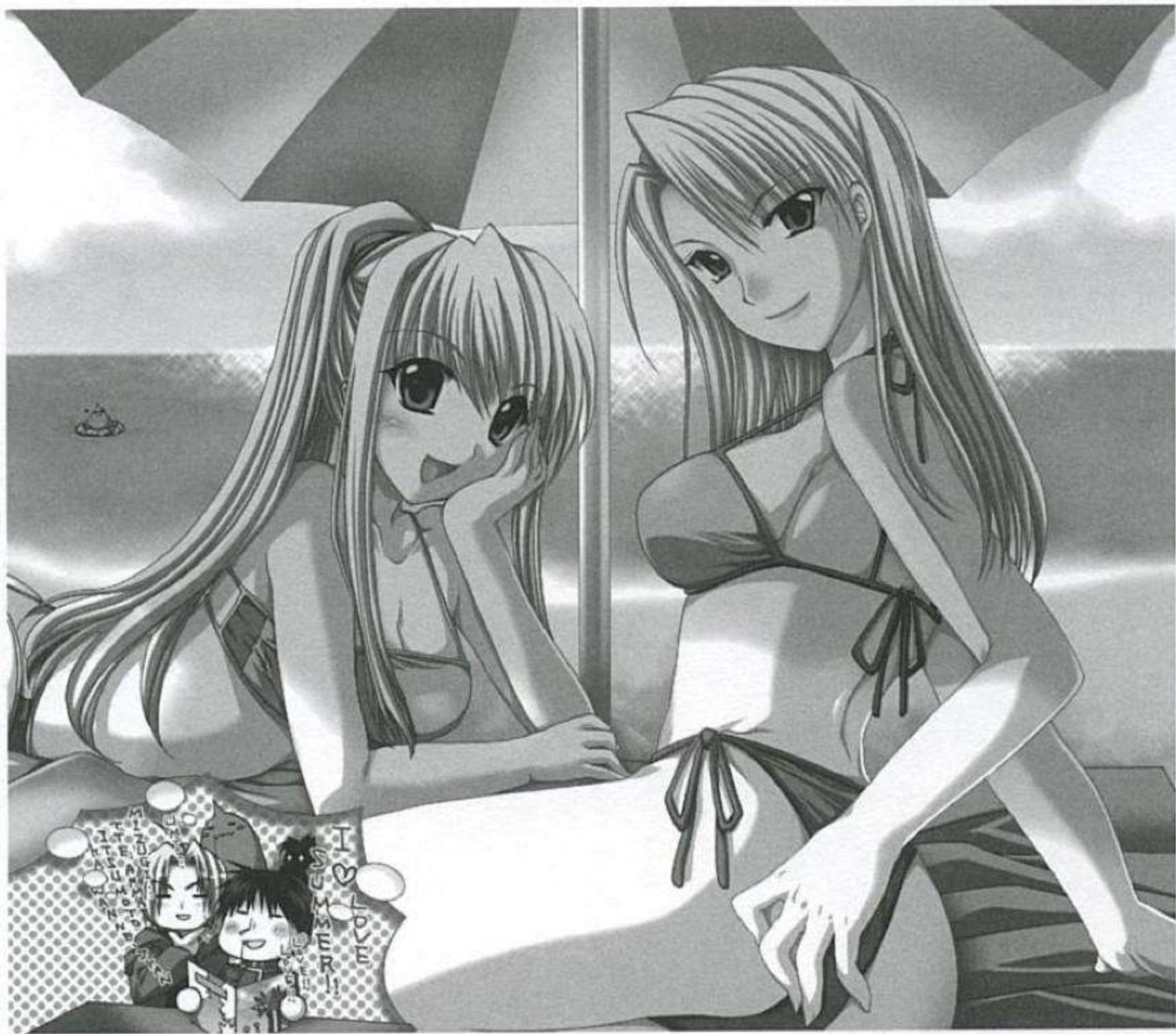
水無月さん、  
ゆーやん  
秋刀魚、  
目黒さん、  
本当に本当にありがとうございました。  
あたいもう少し良い子になれるよう  
がんばるよ…。  
だから見捨てないでくれようう…  
しくしくしく…

次回9月のサンクリです。あと全国。  
サンクリはFate本予定してます。  
アーチャー×凜で！！  
いろいろ変わるかもなのでHPでチェック  
してみてくださいな。  
うをー！！がんばるぞー

ここまで読んで下さって  
ありがとうございました。  
またお会いできれば幸いです。







# GEKIAI-MERRY-GO-ROUND

2004 FANTASY WIND  
FULLMETAL ALCHEMIST BOOK

FULLMETAL ALCHEMIST - NORMAL COUPLING BOOK

2004年8月13日 発行

2004 FANTASY WIND  
しなの ゆら

印刷

表紙：関西美術印刷株式会社様

本文：緑陽社様

「FANTASY WORLD」

感想とか送るとめっさ喜びます。網トークとかするとニヤついて閉えます(爆)

この本の18歳未満の購読をお断り致します。  
無断での転載、複写等禁止です。

2004

FANTASY WIND

YURA SHINANO  
PRESENT'S

FULLMETAL  
ALCHEMIST

NORMAL COUPLING  
BOOK

ADULT ONLY

[FANTASY WORLD]  
<http://fantasywind.kir.jp/>



# GEKIAI-MERRY-GO-ROUND

2004 FANTASY WIND  
FULLMETAL ALCHEMIST BOOK